

2. 現状の整理

1. 人口・世帯

現状

本市の人口は減少傾向にあり、過去10年間で1.1%の人口減となっている。中心市街地の本業務対象町丁目を含む地域については6.4%減となっており、全市に比べて著しい人口減少が起こっている（表1-1）。町別にみると千代田町四丁目、三河町一丁目では著しい減少がみられるものの、大手町二丁目、本町一丁目などではマンション建設の影響などによる増加も見られる。（図1-1）。

世帯数の推移については全市で12.2%の増加となっているが、中心市街地は2.7%増加で、ほぼ横ばいとなっている（表1-2）。

表1-1 人口の推移（住民基本台帳より）

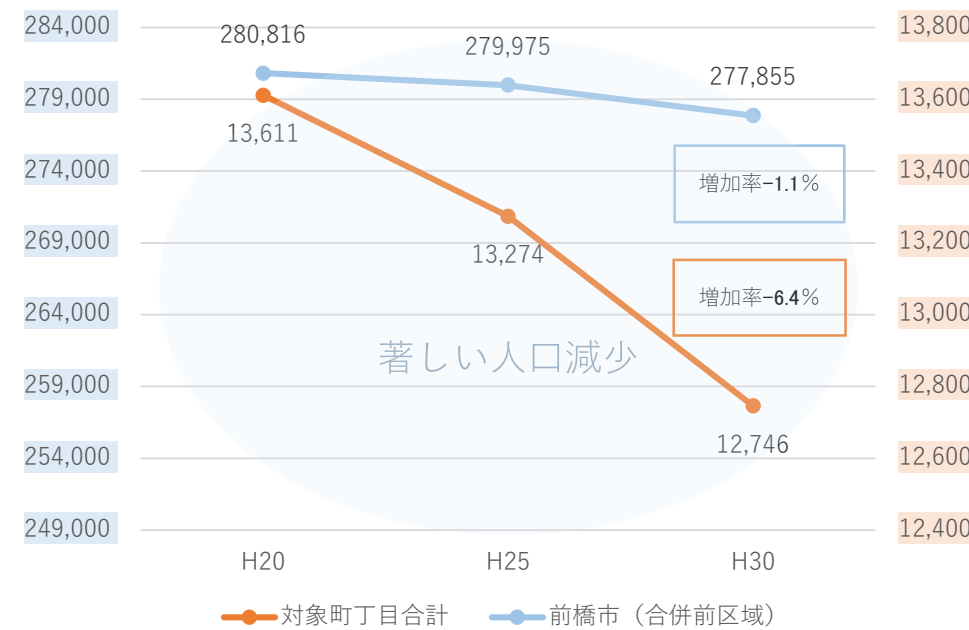


表1-2 世帯数の推移（住民基本台帳より）

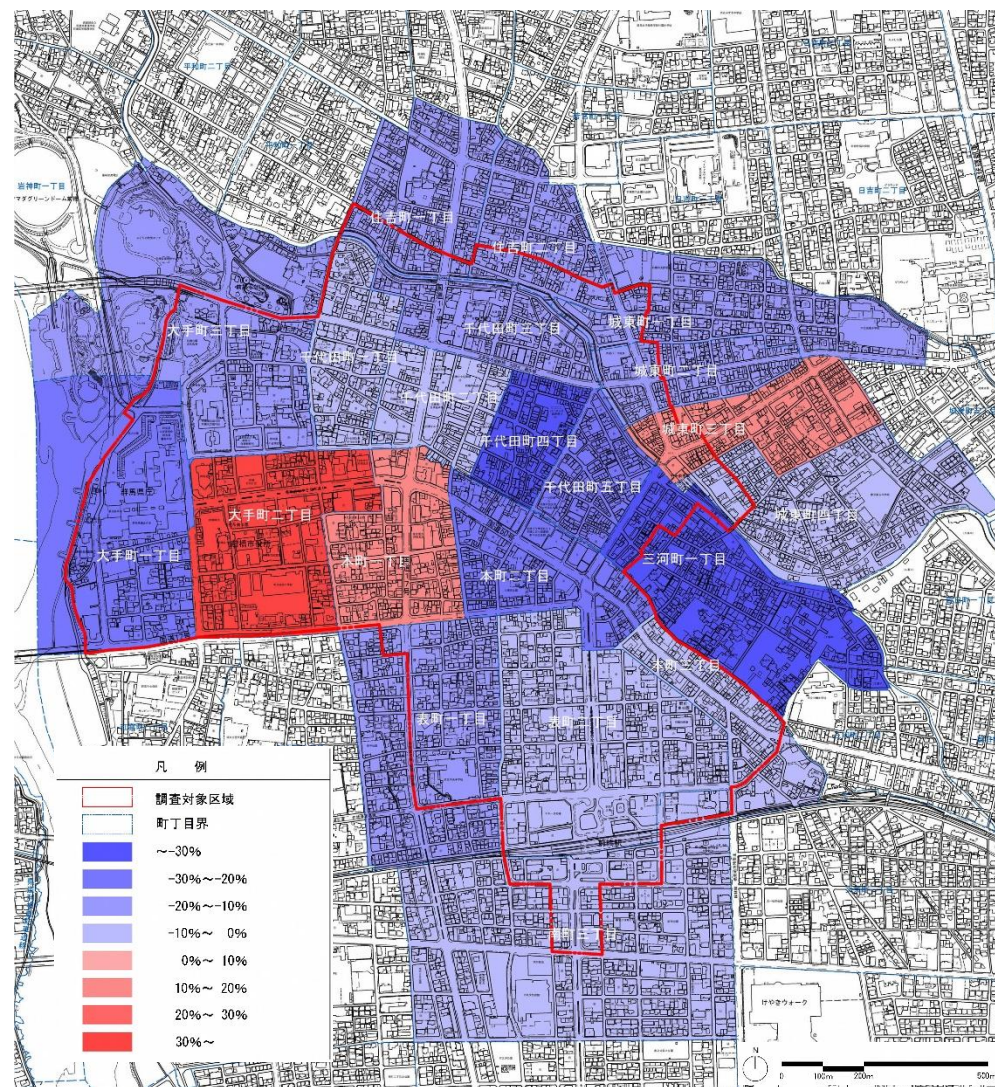
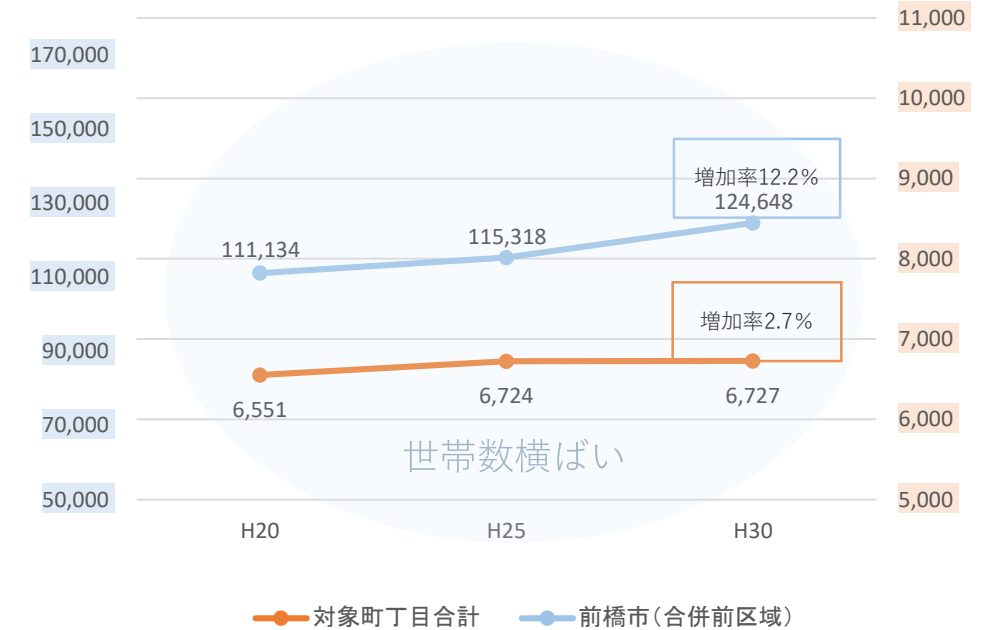


図1-1 H20-H30町丁目別人口増加率(%) (住民基本台帳より)

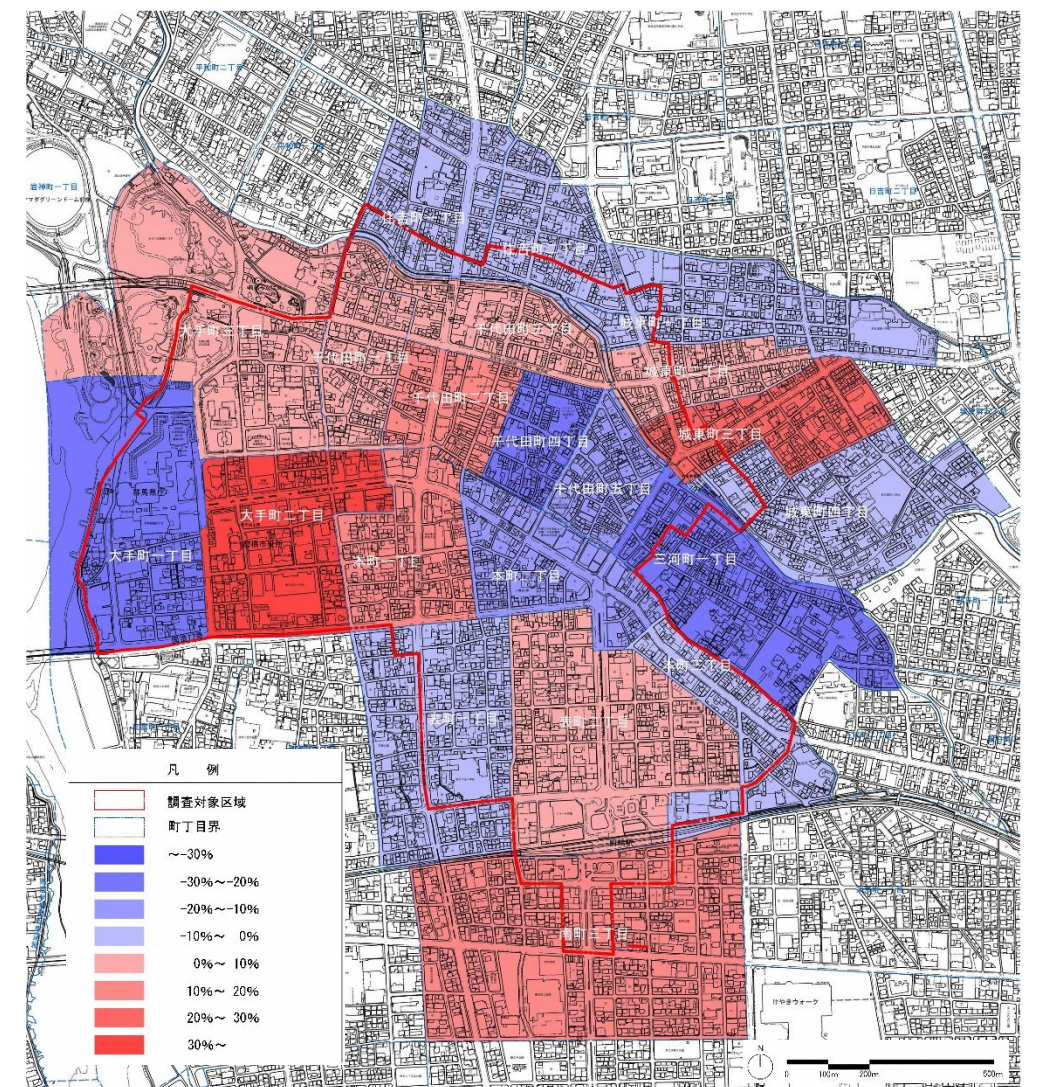


図1-2 H20-H30町丁目別世帯数増加率(%) (住民基本台帳より)

1. 人口・世帯

現状

人口減少の局面にありながら、世帯数は現状維持となっており、世帯当たりの構成人数が減っている状況である（表1－3）。

年齢階級別に純移動数を見ると全市的に15～29歳において進学や就職などをきっかけに転出数が転入数を上回っている（表1－5）。また、中心市街地は全市の平均に比べ老年人口比率が高く、特に千代田町三丁目～五丁目及び、本町二丁目では高い状態にある（表1－4）。

表1－3 一世帯当たりの人数の推移（住民基本台帳より）

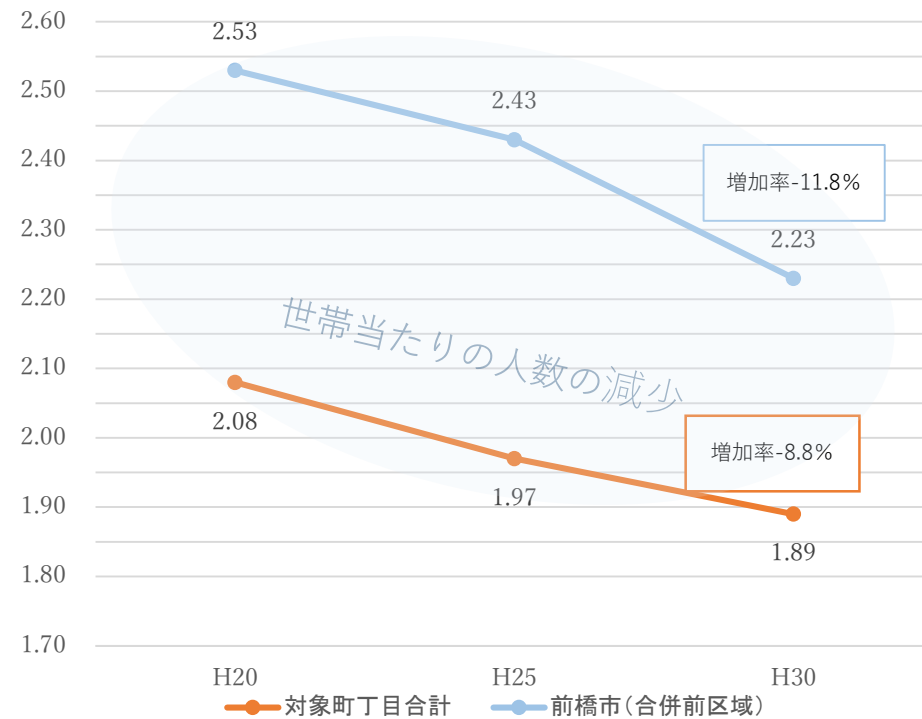


表1－4 人口構成の世代比較（H27国勢調査より）

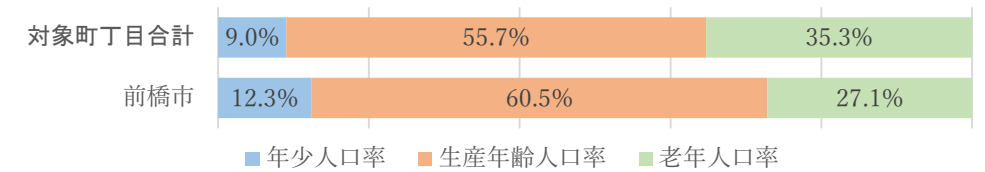
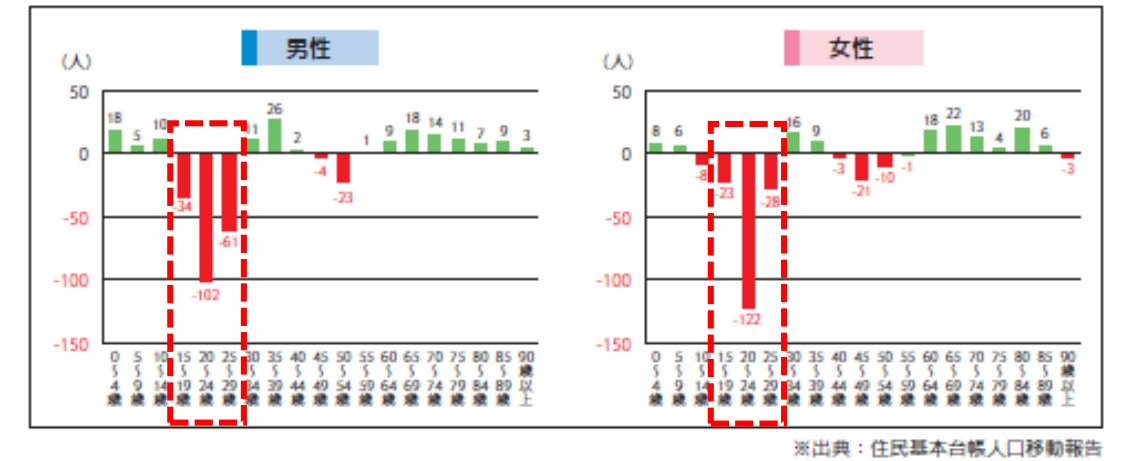


表1－5

年齢階級別 純移動数（転入数－転出数）【2012-2014年（平成24-26年）の3か年平均】



強みと弱み

人口は減少傾向にあり、多くの範囲で減少しているが、一部ではマンション建設等の影響により増加も見られることから、住宅には一定の需要が見込まれる。

若い世代は進学や就職などをきっかけに多くが市外へ流出しており、将来的な定住者数の減少や高齢化の進行により地域活動の継続・維持が困難になることが予想される。

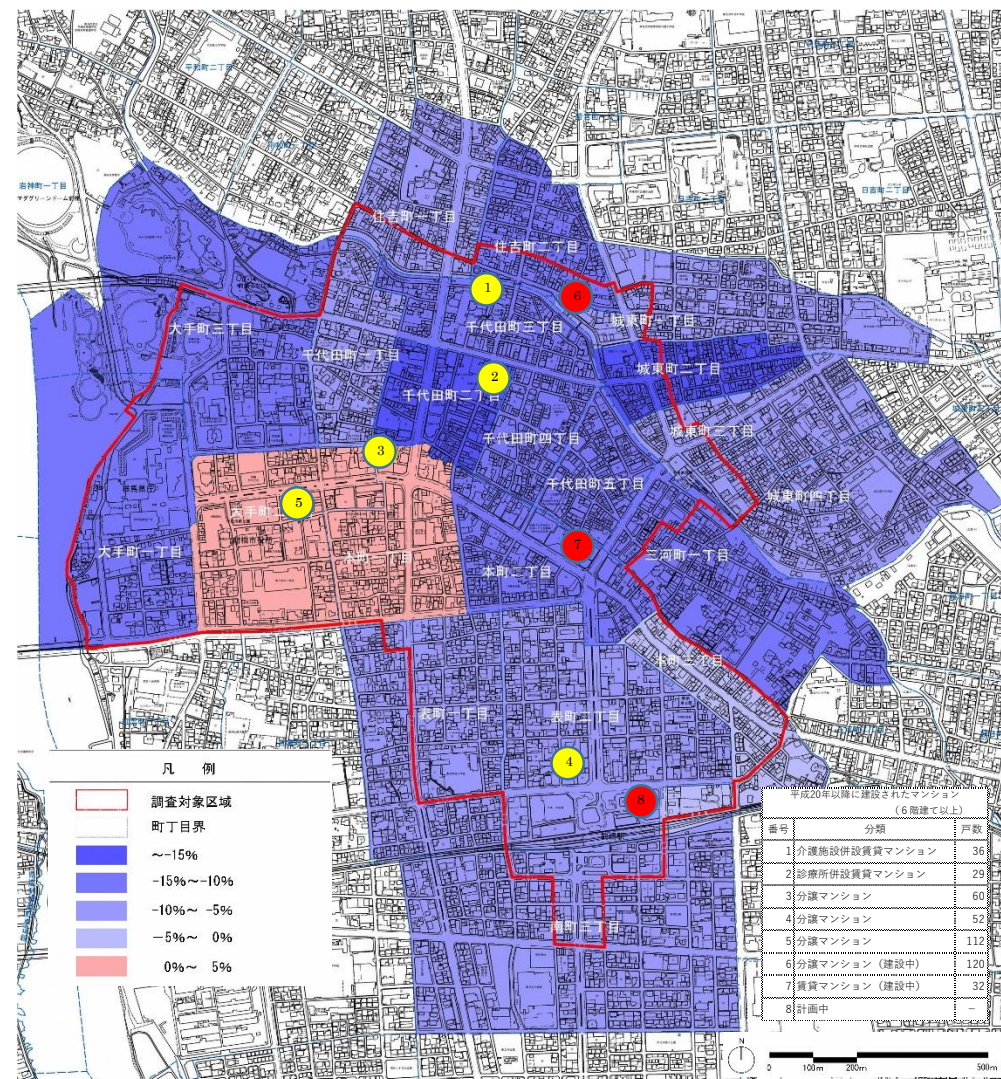


図1－3 H20-H30町丁目別一世帯当たりの人数の増加率(%)（住民基本台帳より）

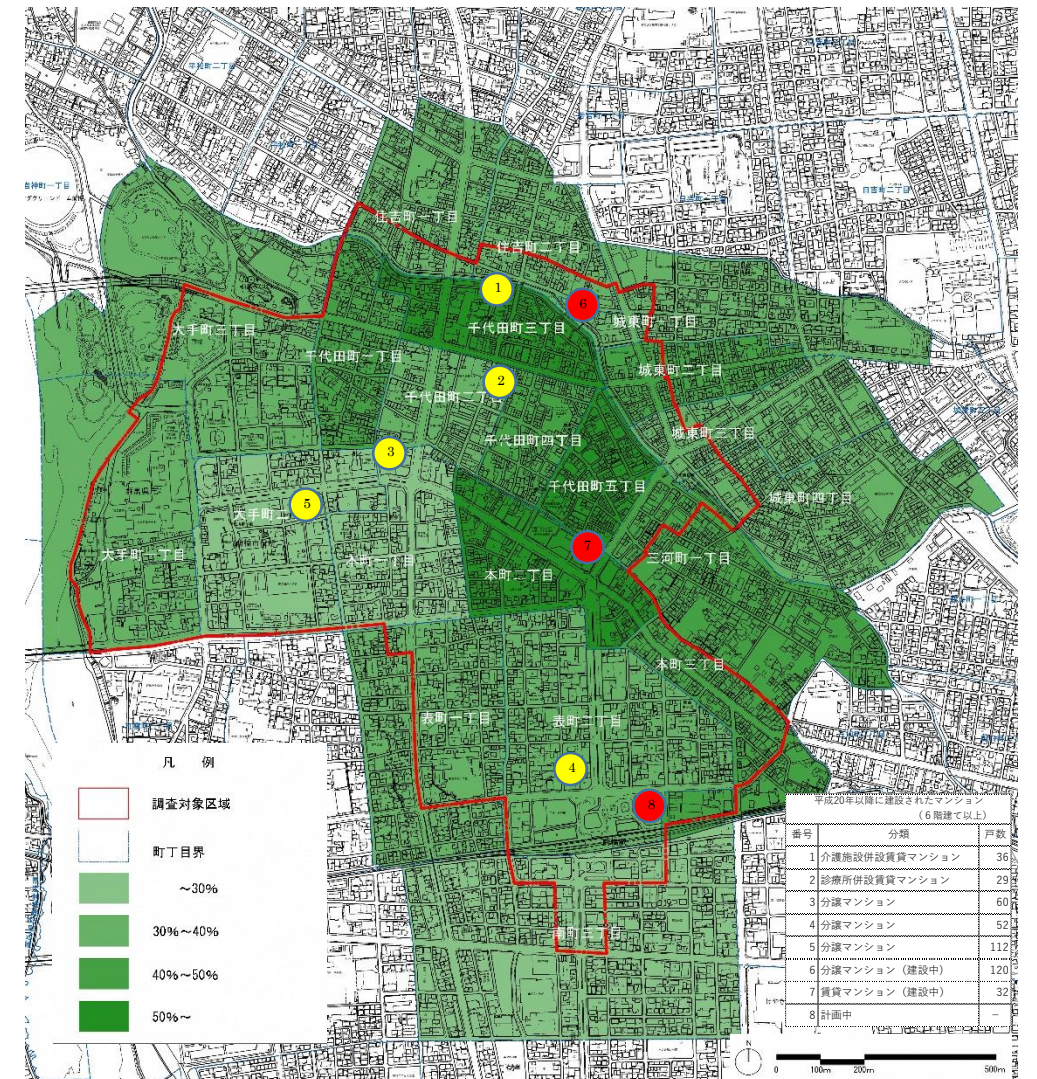


図1－4 老年人口の割合(%)（住民基本台帳より）

2. 店舗・事業所・住居等の建築物

① 店舗・事業所

現状

計画区域にあたる対象町丁目全体で平成21年に2,545あった事業所数が、平成28年には1,931となっており、事業所数は著しい減少傾向にあり、全市における事業所のシェア率も減少し、郊外化が進んでいる（表2-1）。事業所数の減少に伴い、従業者数も減少傾向にある（表2-2）。

また、事業所は千代田町二丁目～五丁目及び、本町二丁目に多く集積しており、小売りを中心とした商業の中心地として発展してきた背景を反映している（図2-1）。一方、従業者数は、駅前から県庁前につながるけやき並木通り沿いに高い密度で分布しており、民間企業の本社や各支店、行政機関の庁舎及び関連事務所など、業務機能の中心地としての土地利用を反映している（図2-2）。

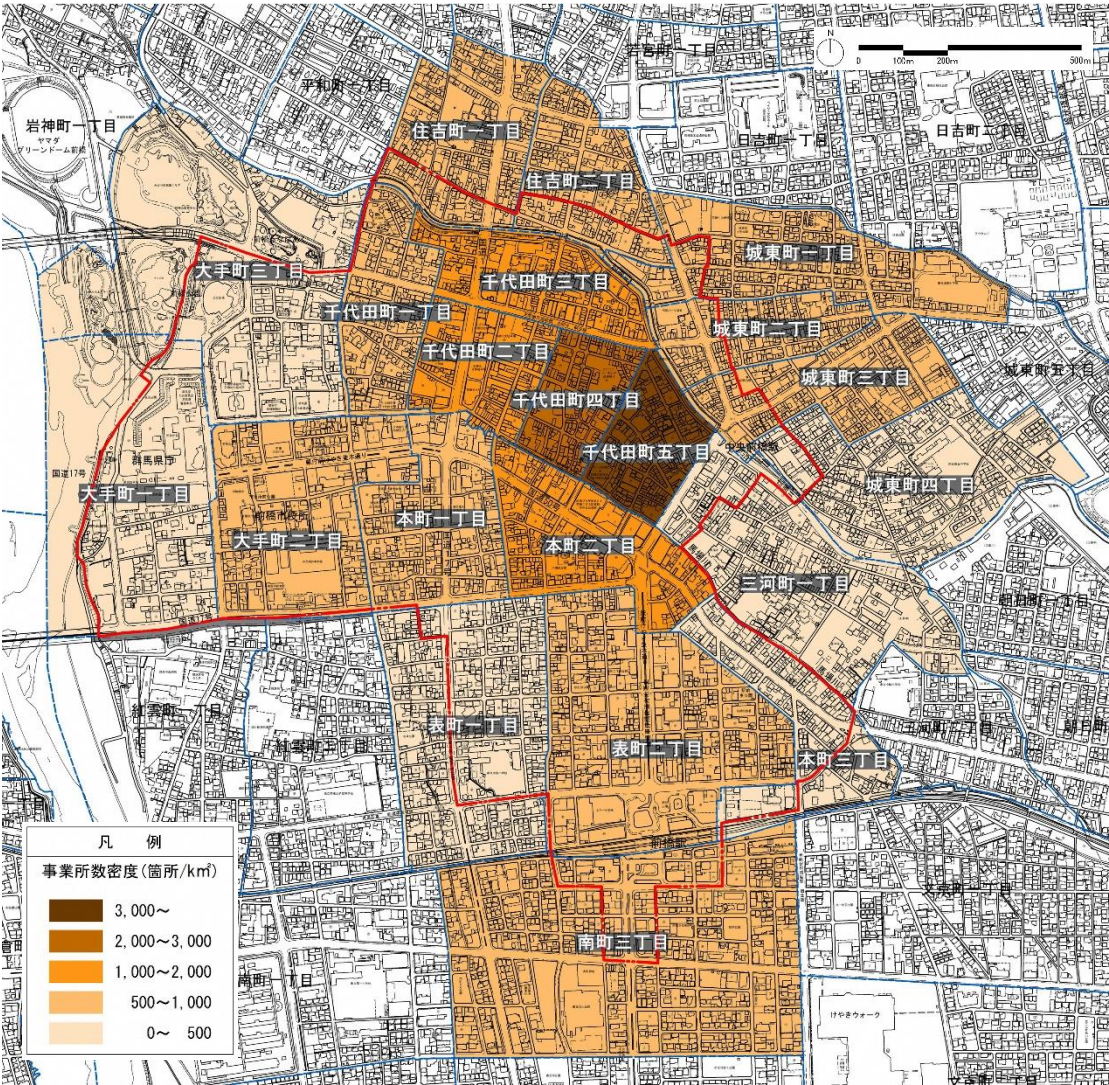
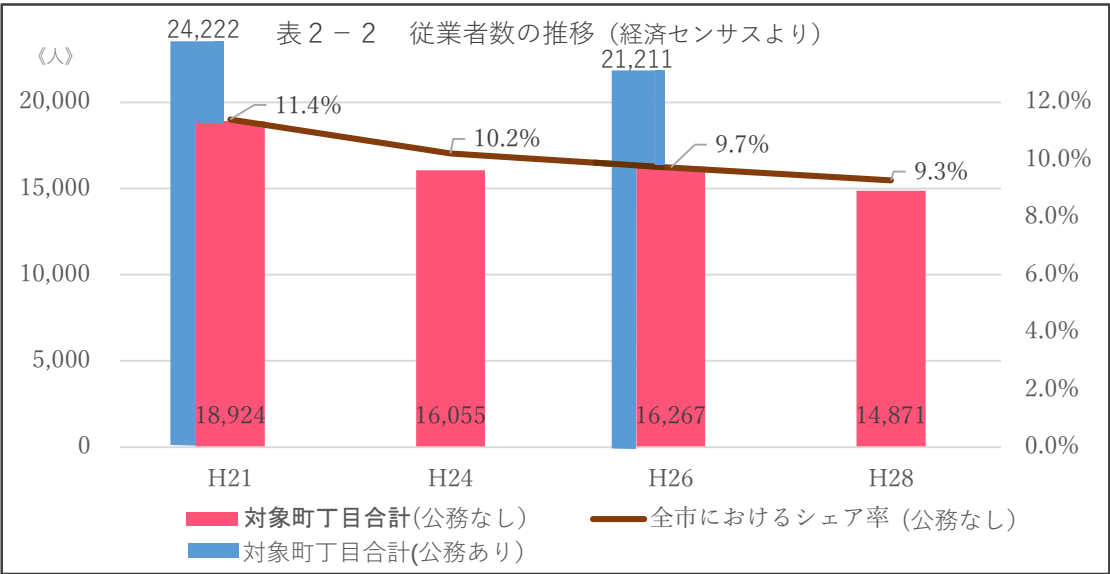
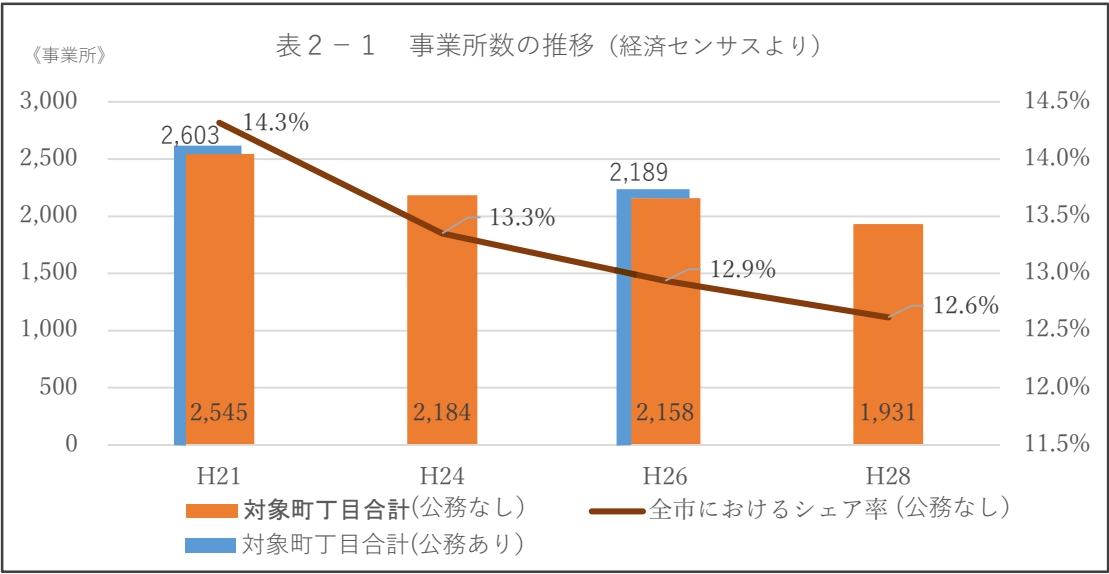


図 2-1 H 2 6 年 町別の事業所密度分布（公務含む）（住民基本台帳より）

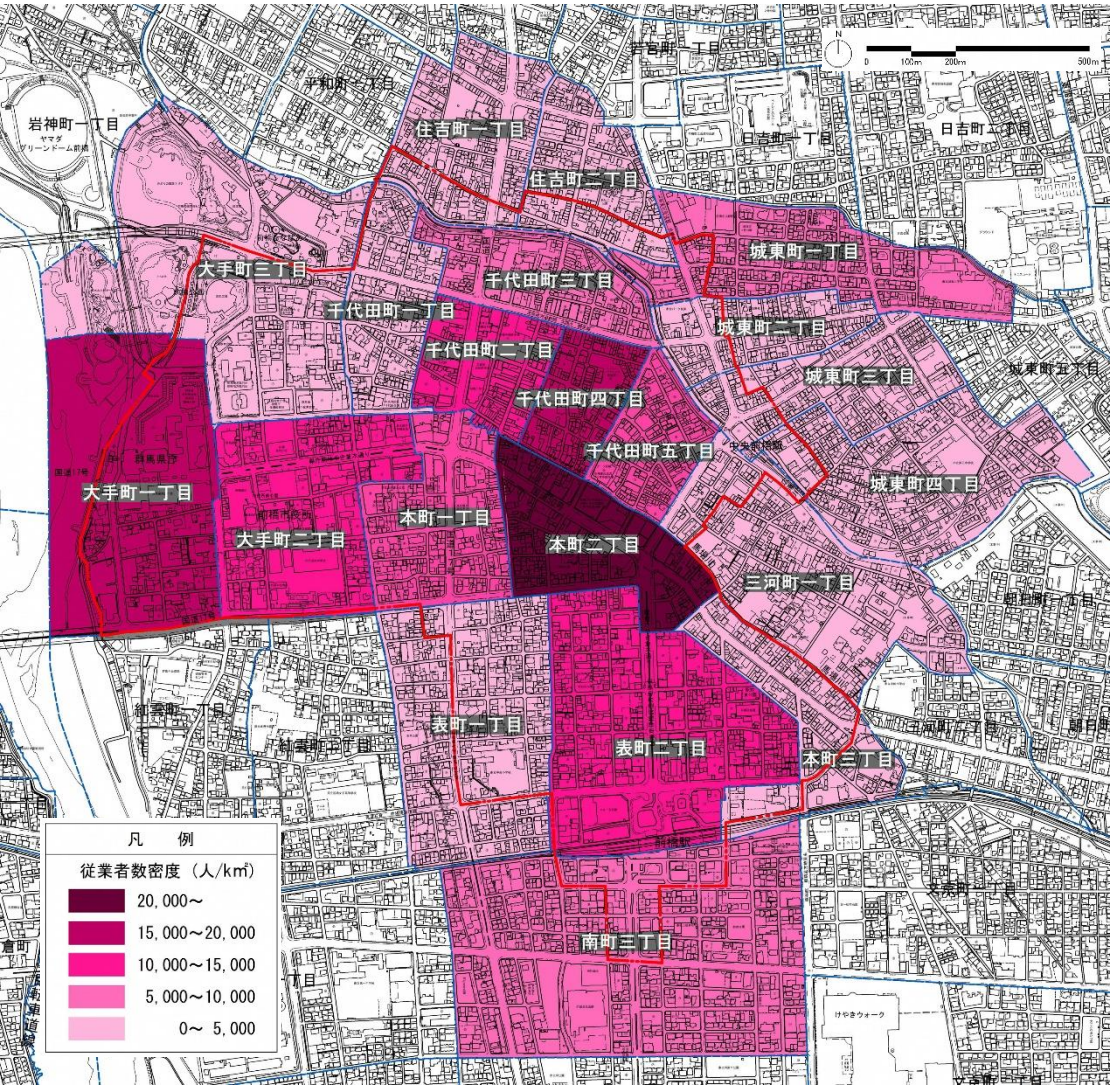


図 2-2 H 2 6 年 町別の従業者密度分布（公務含む）（住民基本台帳より）

2. 店舗・事業所・住居等の建築物

③ 空きビル・空き店舗の分布 (1階が空室と1階以外が空室のビル、空き店舗)

現状

空きビル、空き店舗の調査においても空き家調査と同様に、下記の項目に沿って目視により判定をした。

- ・外壁・屋根・外部建具等の劣化
- ・カーテン・障子等の劣化
- ・電気やガスメーター停止している 等

通りの賑わいに繋がる業務ビルの1階は入居しているが、2階以上が空いている状況は、広域に点在している。
業務ビルの1階部分が空き区画という状況も広域に広がっているが、特に千代田町四丁目、五丁目では多く見られる。

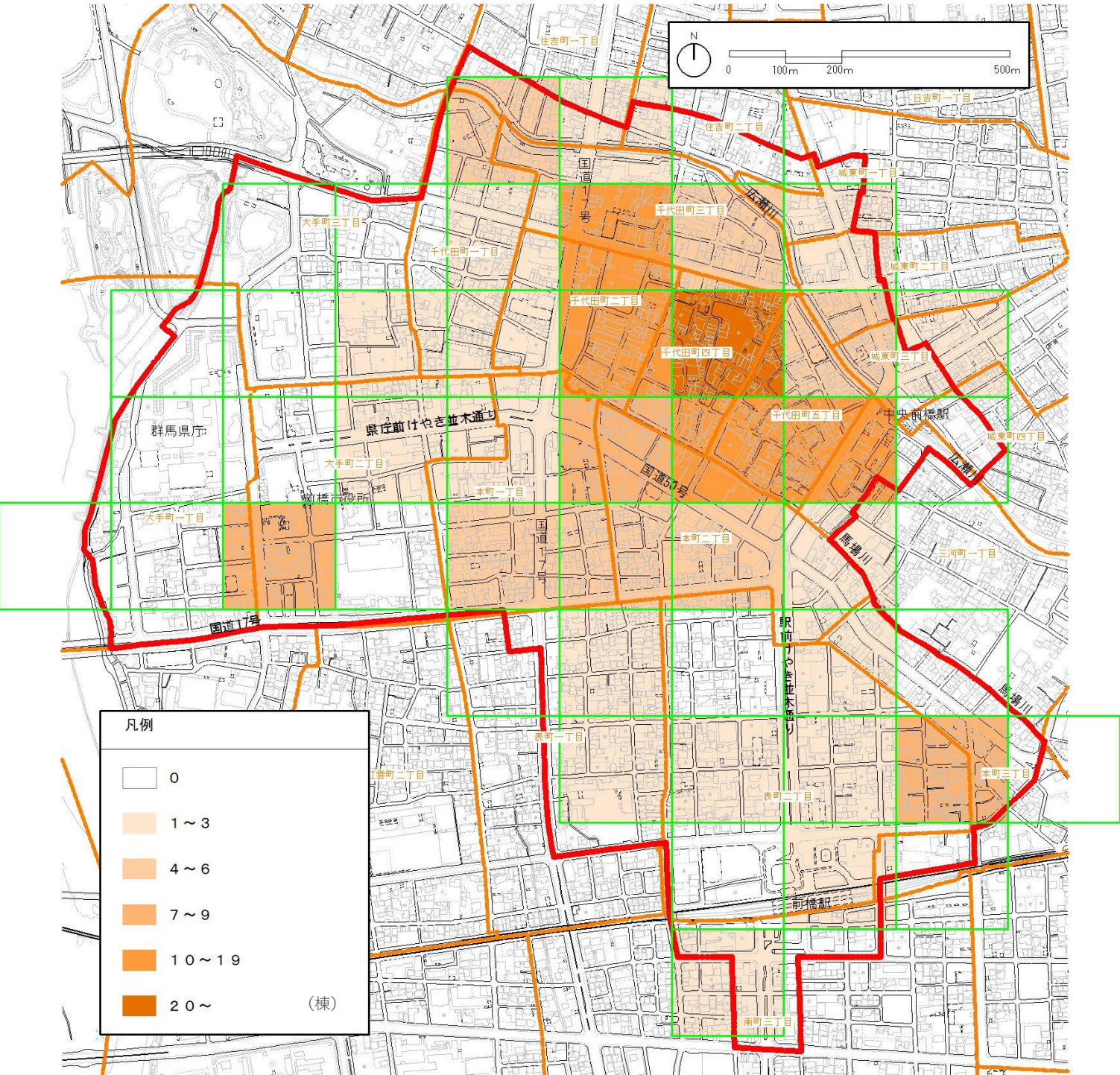


図2-4 1階が空室及び全空室の空きビル・空き店舗の遊休不動産の分布 (H30.10調査)

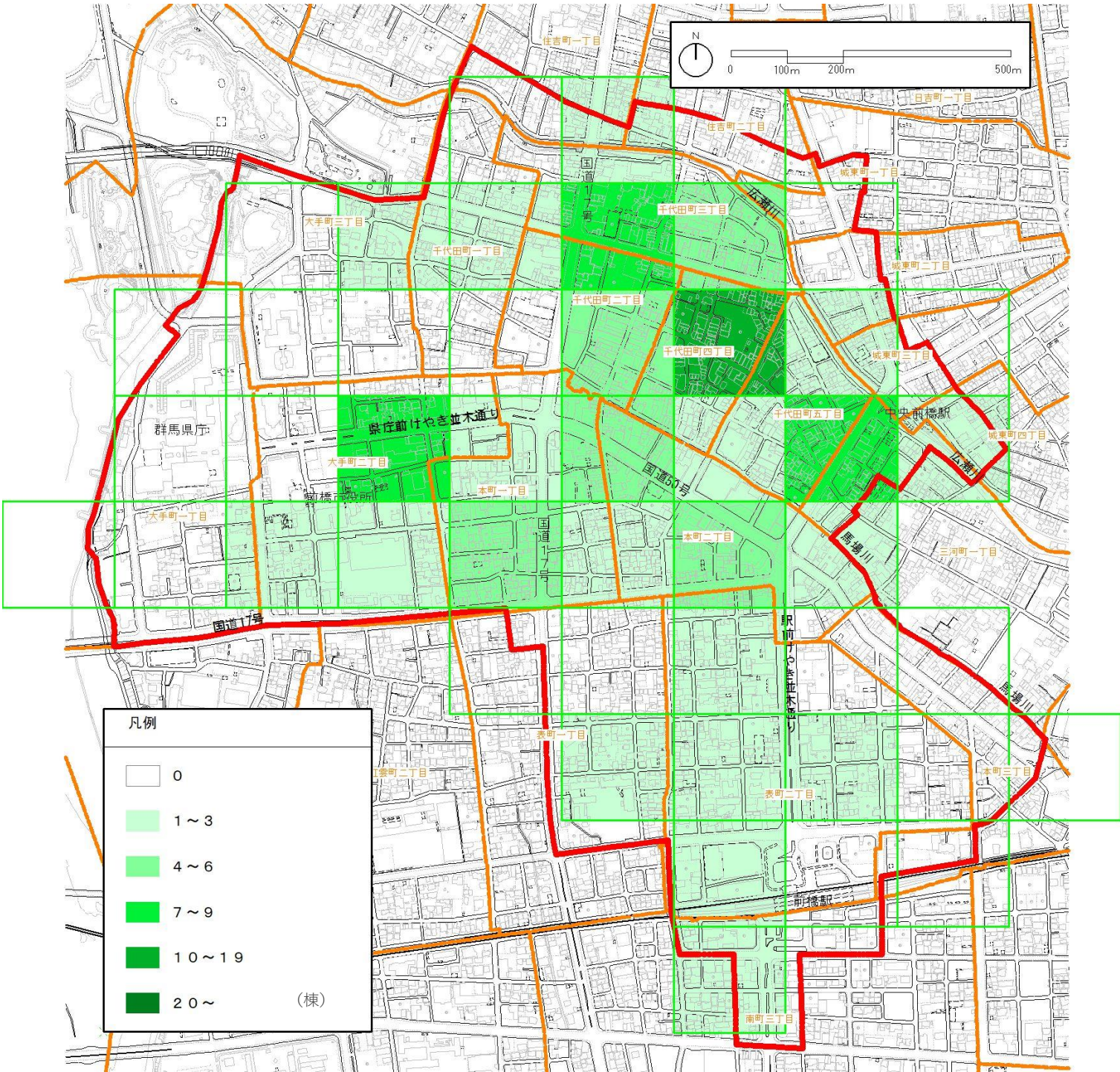


図2-5 1階は入居しているが2階以上が空室の空きビル・空き店舗の遊休不動産の分布 (H30.10調査)

2. 店舗・事業所・住居等の建築物

④ 空き家・空きビル・空き店舗・空き事業所の分布まとめ

強みと弱み

事業所や店舗が減少し、長期間空きビルとして更新されずに残されていることや、地上階の空きがまちの賑わいの連続性を低下させる要因となっている。長い間中心市街地の低迷が続いており事業所や店舗の更新が滞っていたが、近年は既存建物を活用した施策としてまちなか居住や空洞化対策等の支援策が充実により、それを追い風としてシェアハウスやシェアオフィス、新たな店舗の出店などが見られるようになった（住宅転用実績（H25～30）4件25戸。まちなか店舗開店支援実績（H17～30）132件）。そうした視点に立つと、活用の余地のある遊休不動産が地域の資源として多く存在していると捉えることができる。

また、レトロで風情のある古い街並みや、歴史的建造物が残っていることから、多くの映画やドラマのロケ地として使われている（前橋観光コンベンション協会による支援実績45件（H29））。このような古い街並みが残ることも中心市街地の魅力と言える。

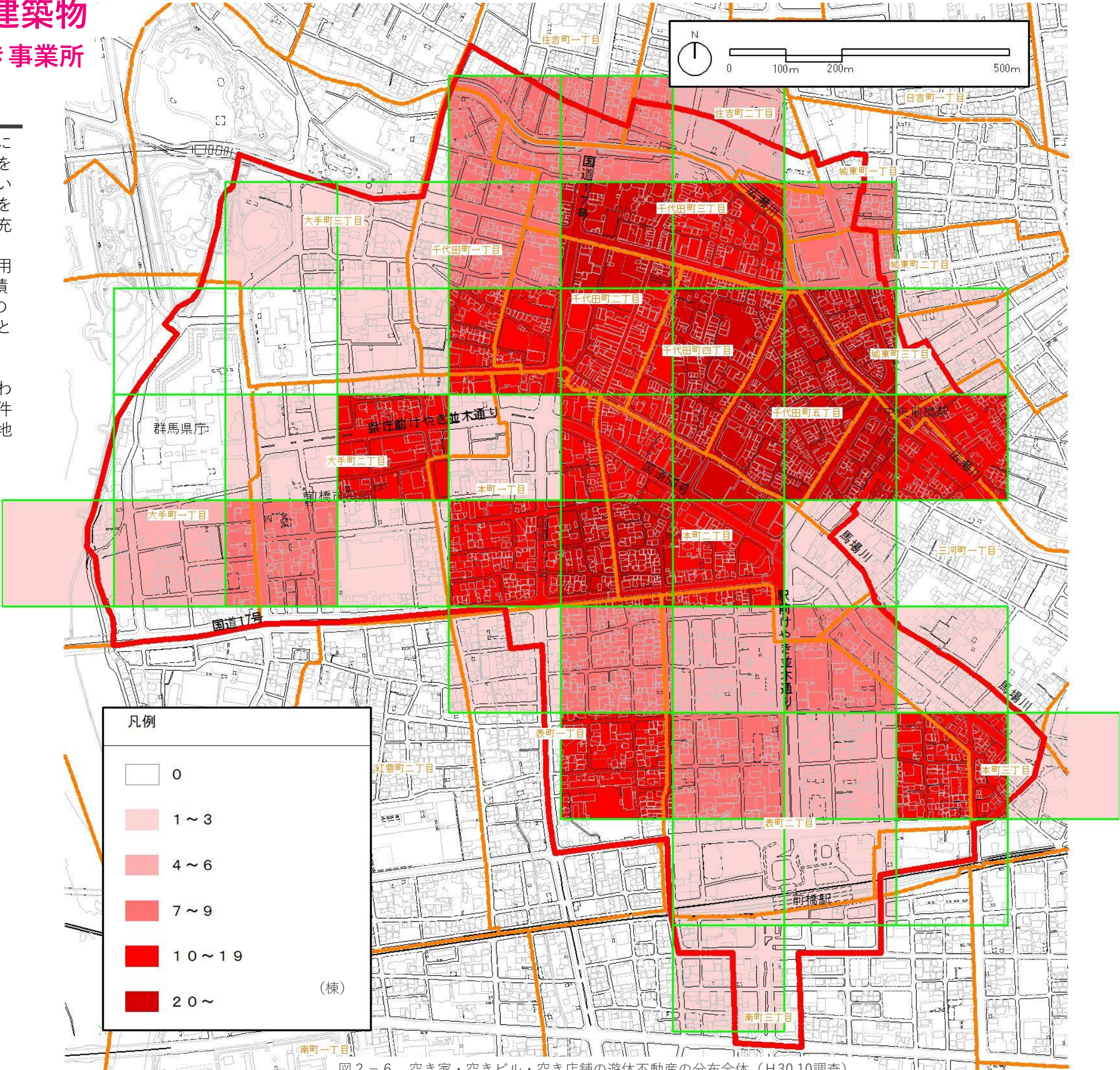


図2-6 空き家・空きビル・空き店舗の遊休不動産の分布全体（H30.10調査）

3. 公園・緑地・オープンスペース

① 公園・緑地・河川

現状

中心市街地の周辺地域には街区公園、総合公園、緑地が多く分布している。河川においても利根川、広瀬川、馬場川などが流れ、広瀬川は本市の市民憲章である「水と緑と詩のまち」のシンボルとして多くの市民に親しまれている。

道路の緑化においては主要な街路を中心に、ハナミズキ、イチョウ、ケヤキなどの街路樹や植樹帯が整備されており、駅前けやき並木は前橋の象徴的な風景となっている。細街路については植栽の整備は少ない。

公園、緑地



河川・水路・池・親水



公園・緑地・河川の一例

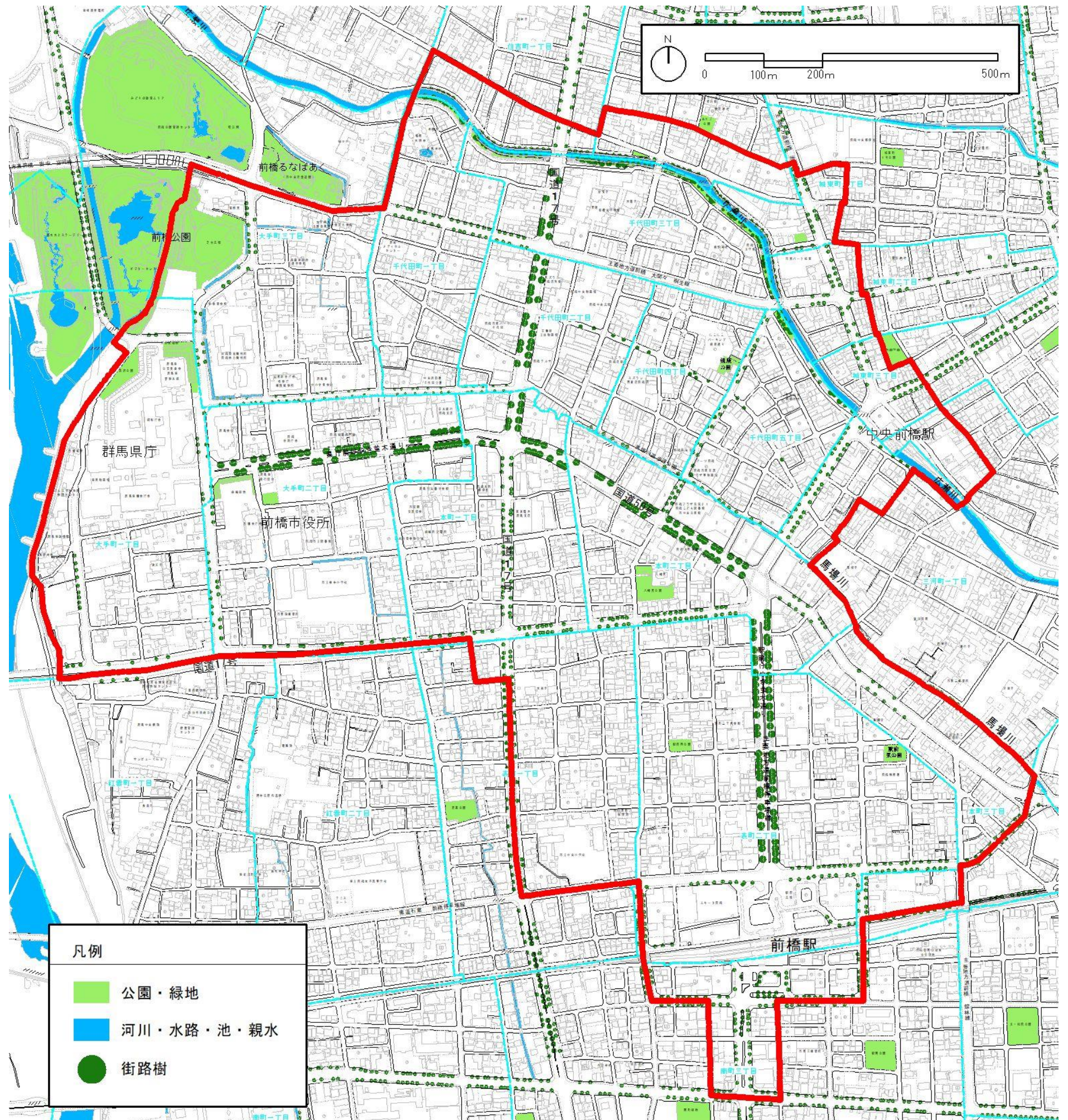


図3-1 公園・緑地・河川の分布（H30.10調査）

3. 公園・緑地・オープンスペース

② オープンスペース (広場、空き地、公開空地、寺社の境内)

現状

- 広場
中央イベント広場を中心にイベントが開催され、賑わいの中心となっている。
- 空き地
小規模な空き地が点在しており、長期間活用がされていない状態のものが多くみられる。
- 公開空地
利活用されていないものが多い。
- 寺社の境内
中心市街地の周辺地域に歴史ある寺社が多く分布している。

広場



空き地



公開空地



寺社の境内



オープンスペースの一例

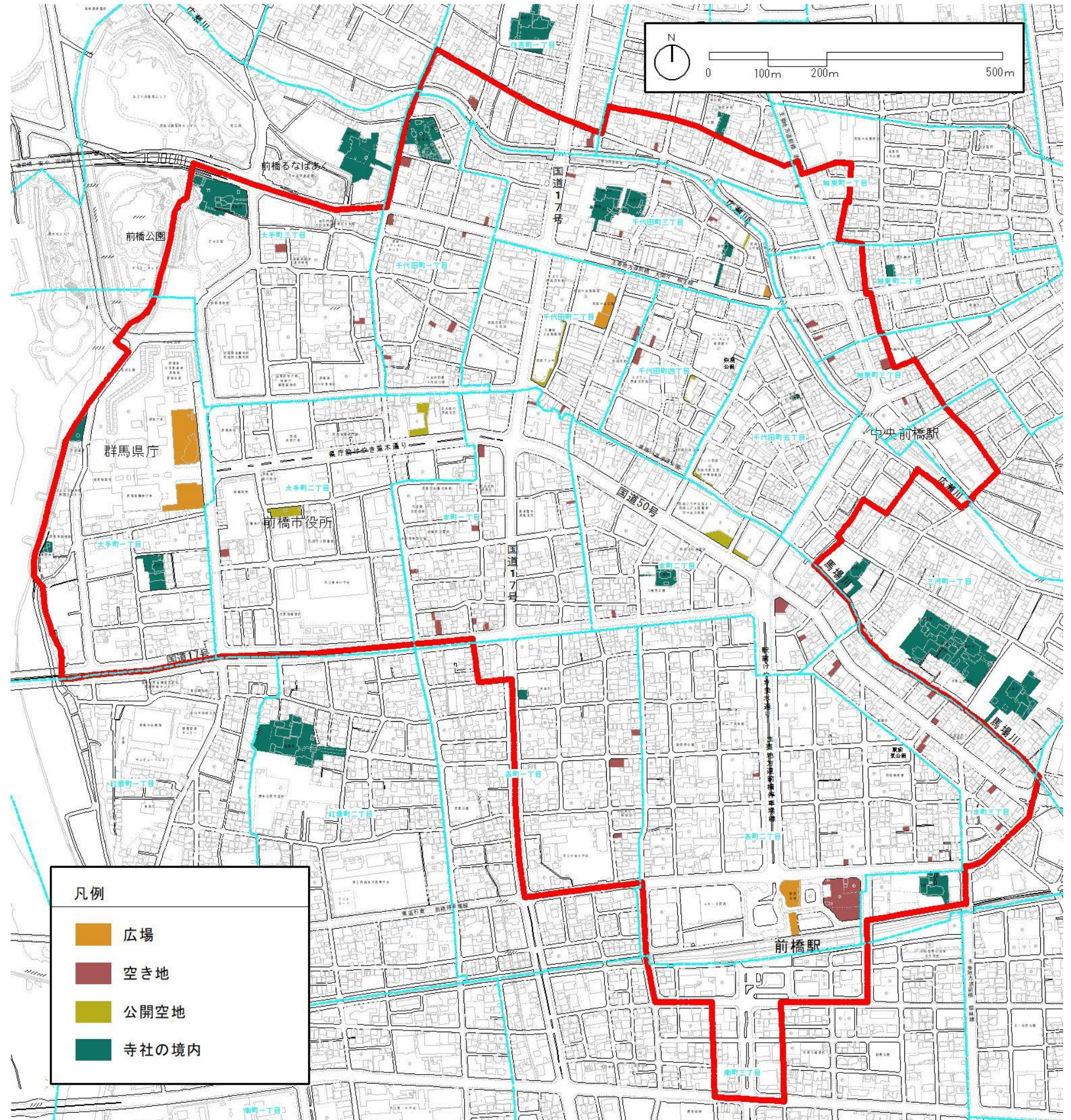


図3-2 オープンスペースの分布 (H30.10調査)

3. 公園・緑地・オープンスペース

③ 駐車場

現状

大小様々な平面駐車場が広域に分布しており、街並みの連続性を低下させる要因となっている。日常の交通手段として自動車に依存していることから、老朽化した建物の解体後の活用として、平面駐車場に転用される事例が多くみられる。

平面駐車場



駐車場等の低未利用地の一例

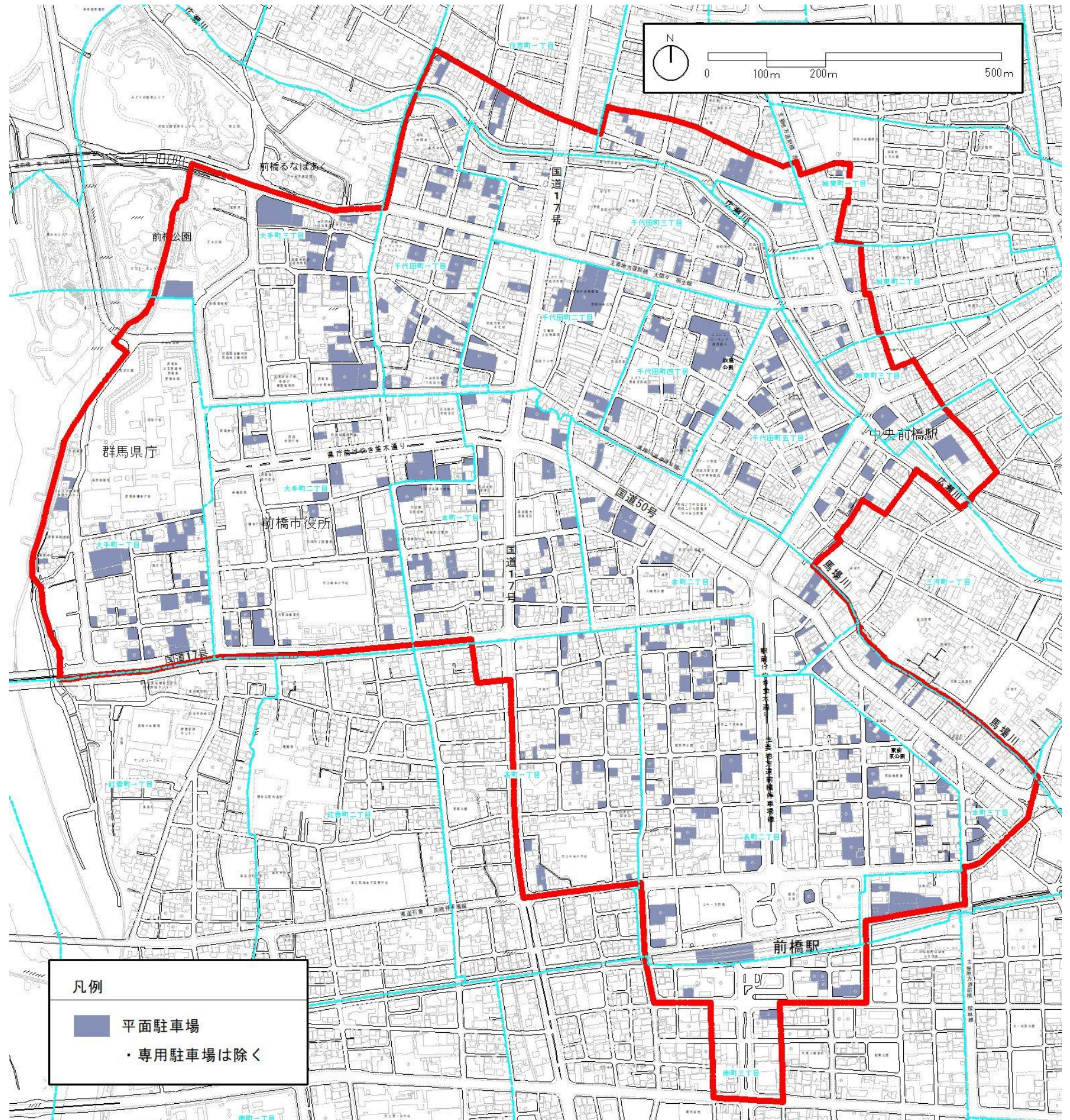


図3-3 駐車場等の低未利用地の分布（H30.10調査）

3. 公園・緑地・オープンスペース

④ 公園・緑地・河川・オープンスペース・駐車場の分布まとめ

強みと弱み

群馬県の自動車保有率の高さや、交通手段を自動車に依存していることから、駐車場として転用されるものや、現状維持のままのものが多く、空き地や駐車場などの低未利用地の分布が多くみられる。こういった低未利用地においても広瀬川や前橋公園など地域資源の近くに位置するものは、活用手法により一体的に有効利用できる可能性を持っている地域の資源として捉えることができる。

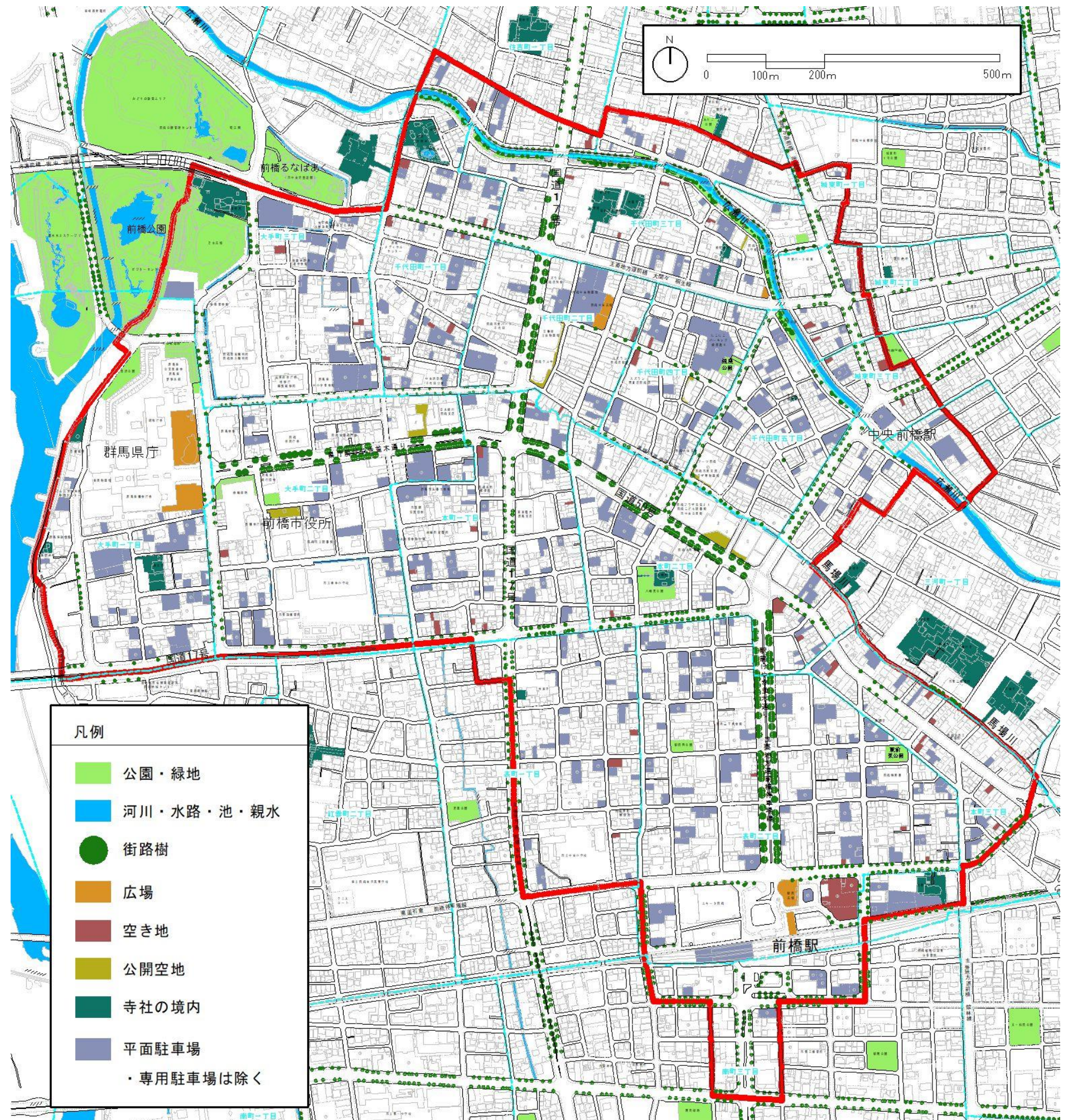


図3-4 公園、空き地、駐車場等の低未利用地の分布全体（H30.10調査）

4. 交通・街路

現状

中心市街地には鉄道駅が2つ（前橋駅、上毛電気鉄道中央前橋駅）と、バス会社6社および循環バス「マイバス」が乗り入れている。また、バス路線の多くが前橋駅を起点としている（図4-1）。

しかし、多くの路線が補助金による委託路線となっており、その利用者は年間100万人前後と伸び悩む一方、補助金額は年々増加し、平成29年度では年間約3億円を超える額となっている（表4-1）。この現状は、全市的に日常的な移動手段として自動車を使う割合が75%と高い一方、電車やバスなどの公共交通や、徒歩、自転車を手段とする割合は少ない（表4-2）ことから、今後も公共交通を維持していくための取り組みとして、自動運転バスの実証実験や、デマンドバスのAI活用の実証実験など、新しい取り組みが行われている。

強みと弱み

市内において中心市街地は鉄道やバス路線が整備されており、公共交通網が比較的整っているが、日常的な交通手段は自動車の利用が大部分を占め、高い自動車依存型社会となっている。公共交通の維持のための公的負担も大きくなっており、交通事業者のドライバーの確保や効率的な運航に資するための新技術を活用した先進的な取り組みによる課題解決に向けて動き出している。



図4-1 バス路線MAP 前橋市 交通政策課より



表4-1 前橋市委託路線数の補助金額と利用者数の推移
前橋市資料より

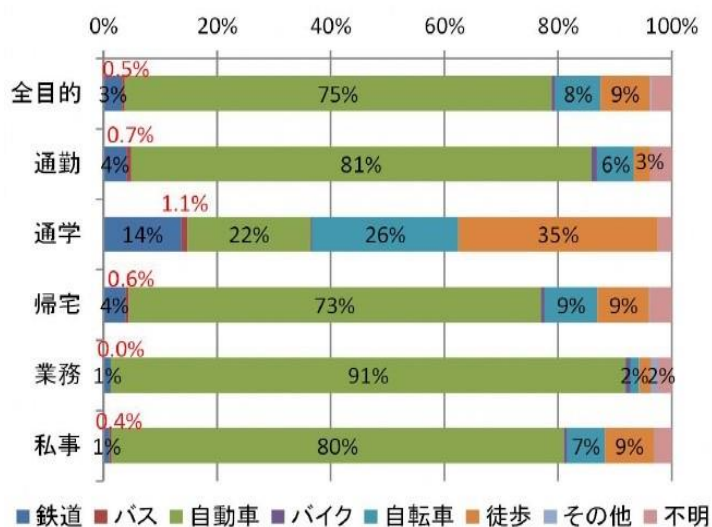


表4-2 目的別交通手段分担率
群馬県パーソントリップ調査（H27）より

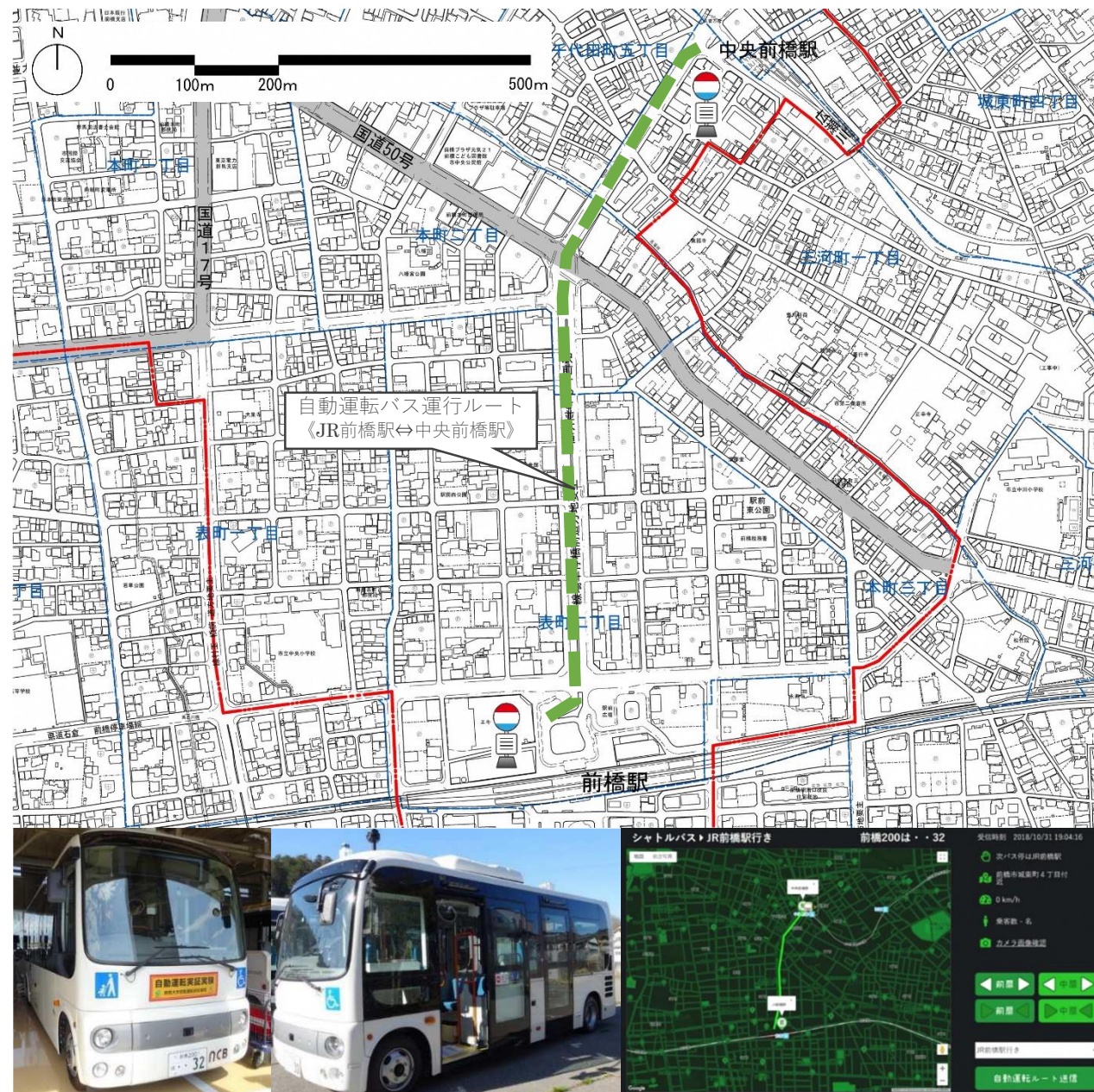


図4-2 実験運行ルート地図(上)・自動運転バス車両・運行管制システム(下)
前橋市 交通政策課より

前橋市、公共交通の利便性向上へ AIでバスルート最適化



前橋市が郊外のバスやタクシーの利便性の向上に向けて動き出した。電話予約で利用できるデマンドバスに、スマートフォンのアプリで乗車するバス停や目的地を選択し、人工知能（AI）が最適なルートを設定する配車システムを試験導入した

図4-3 デマンドバスのAI試験導入

5. 文化・歴史・自然

現状

中心市街地には広瀬川、利根川、前橋公園といった自然資産が多く存在している。また、臨江閣、城跡といった歴史資産や、るなばあく、前橋文学館、アーツ前橋、太陽の鐘といった文化・芸術資産や「だるま市」の名で親しまれる初市まつり、北関東では最大級の前橋七夕まつり、戦後の「復興祭」として始まった前橋まつりといった前橋三大祭りがある。

強みと弱み

中心市街地には自然・歴史・文化・芸術資産が数多く存在し、前橋三大祭りには多くの集客で街が賑わう。しかし、数多くある資産の間における連携が薄いことから来街者の回遊につながっていない。



自然、歴史、文化、芸術資産の一例

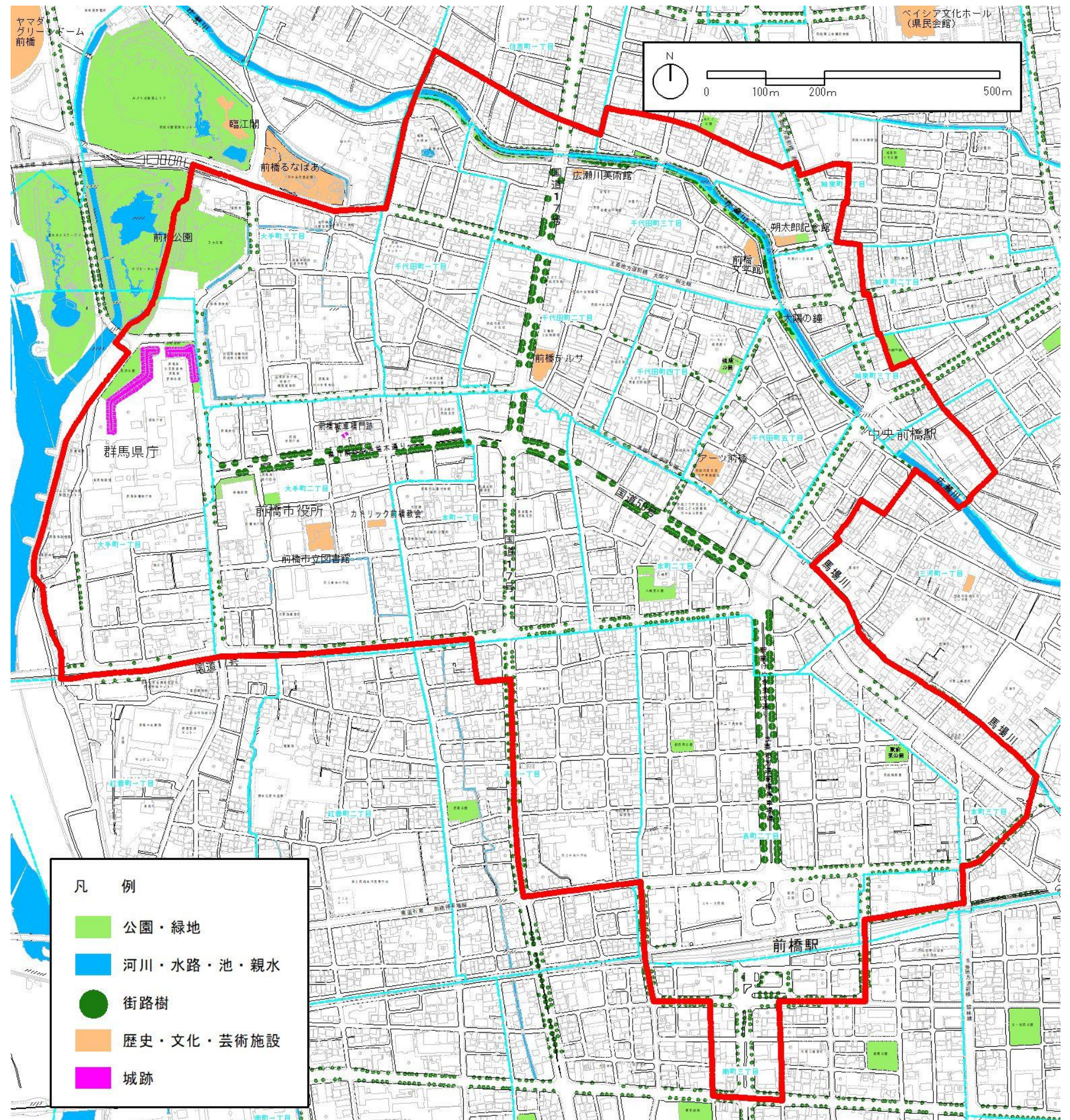


図5-1 自然、歴史、文化、芸術資産 (H30.10調査)

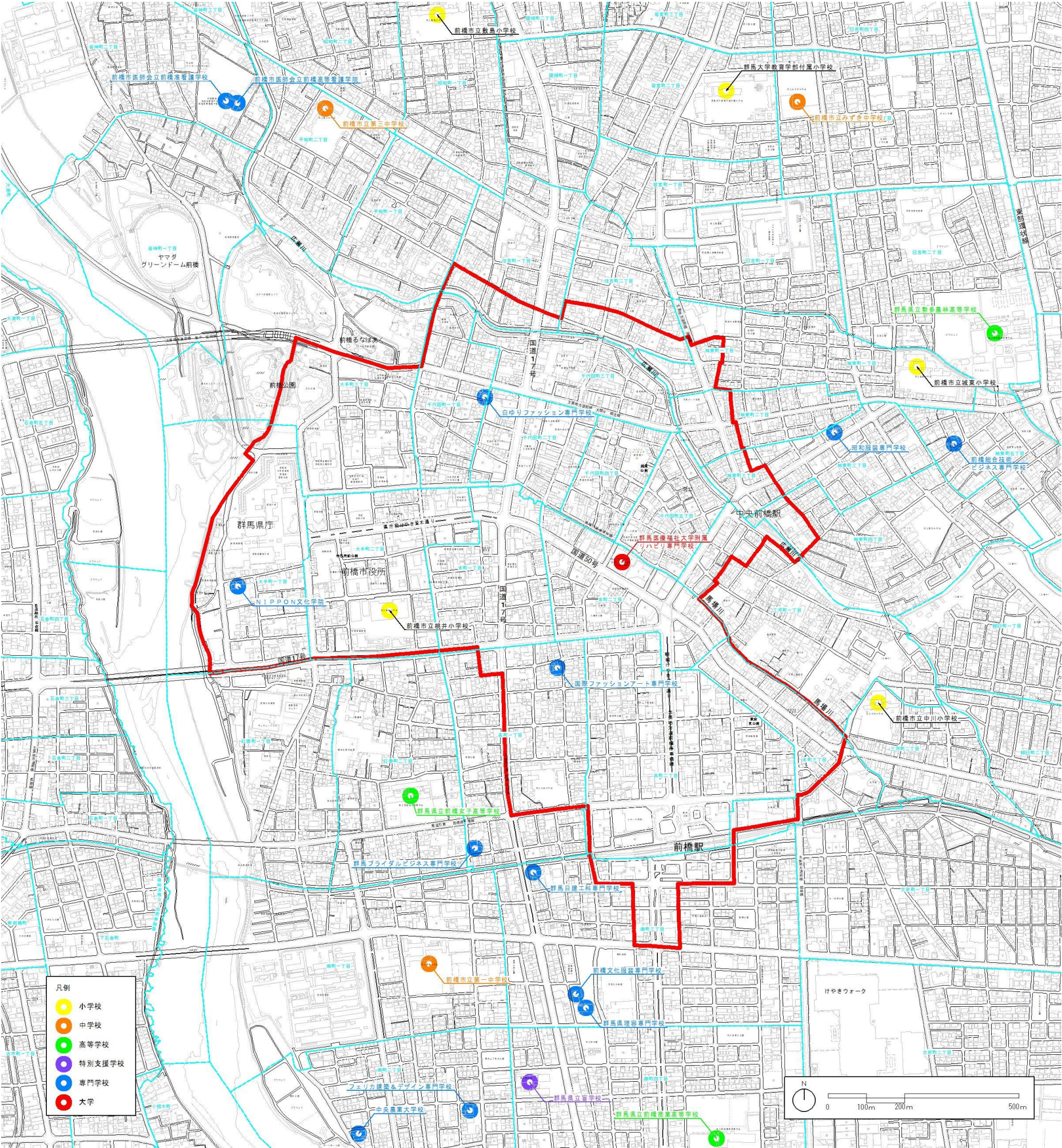
6. 教育施設

現状

市内には専門学校29校や大学5校、短期大学3校など教育施設が多くあるが、策定区域に立地している施設は専門学校3校と大学キャンパスが1つと少ない。

強みと弱み

策定区域に学校が少ないことから、学生が中心市街地に訪れる機会が少ない。
しかし、近年では大学のサテライトキャンパスとして空きオフィスの活用や、フィールドワークや課題の対象地として活用されることも増え、まちに関わる学生が増えつつある。



7. 前橋市全域の特徴

現状及び強みと弱み

赤城山南麓の豊かな土壌や日照時間の長さなどを背景として、農畜産物の産出量が全国的にみても上位であり、本市の主要産業となっている。その一方、家計調査における消費を他の県庁所在地・政令指定都市と比較すると金額、量ともに少ない（表7－1）。

日帰り観光客の入込数は県内で1位であり、赤城山や児童文化センター、るなぱあくなどに多くの観光客が訪れている。一方、宿泊客は少なく、県内で7位となっている（表7－2、7－3）。

前橋5G等ICT利活用検討推進協議会の発足やICTを活用した実証実験等による地域課題の解決に向けた先進技術の活用促進体制が整っている。

創業支援センターをはじめとする様々な支援のほか、創業支援等事業計画を策定するなど、創業を目指す人へのサポート体制が築かれている。

赤城南麓のブランド力向上のため、スローシティ国際連盟へ加入し、国内で2番目の加盟都市となった。スローライフを実践できるまちとして、移住施策を進めている。

医師や医療機関が充実しており、保育所の入所待機児童数が0であるなど福祉施設が多くあり、安心して暮らすことができる（表7－4）。また、がん検診の完全無料化、子どもの福祉医療費の受給等、健康づくり活動も実施されている。

◎農畜産物の生産と消費

表7－1 農畜産物の生産と消費

品目	生産			消費			
	地区用頭数	順位		金額	順位	量	順位
		群馬県	全国				
乳用牛	※1 9,090(頭)	1 /38	35 /1805	15,536(円)	25 /52	80.52(kg)	19 /52
肉用牛	※1 15,200(頭)	1 /38	24 /1805	10,365(円)	49 /52	3,651(g)	49 /52
豚	※1 139,100(頭)	1 /38	8 /1805	25,565(円)	51 /52	17,779(g)	42 /52
採卵鶏	※1 625(千羽)	4 /38	53 /1805	8,551(円)	44 /52	25,795(g)	50 /52
品目	生産			消費			
	収穫量	順位		金額	順位	量	順位
		群馬県	全国				
ブロッコリー	※1 1,440(t)	1 /38	10 /1805	1,605(円)	50 /52	3,496(g)	40 /52
なす	※2 1,660(t)	4 /35	7 /1719	1,521(円)	46 /52	3,820(g)	41 /52
ほうれん草	※2 1,530(t)	4 /35	10 /1719	1,860(円)	42 /52	3,246(g)	22 /52
	※1 作物統計調査 平成18年 市町村別データより 群馬県内は全38市町村中の順位 全国は全1805市町村中の順位 ※2 作物統計調査 平成29年 市町村別データより 群馬県内は全35市町村中の順位 全国は全1719市町村中の順位			※1 総務省統計局 家計調査(家計収支編)H27～H29平均より ※2 二人以上の世帯 品目別都道府県庁所在市及び政令指定都市52都市中の順位			

◎県内の観光客入込数(表7-2)

【単位：人】

順位	日帰り	宿泊	合計(日帰+宿泊)
1位	前橋市	草津町	高崎市
	6,081,600	2,220,400	6,688,800
2位	高崎市	渋川市	前橋市
	6,058,100	1,174,300	6,503,400
3位	桐生市	みなかみ町	渋川市
	4,051,500	1,101,100	4,667,500
4位	藤岡市	嬬恋村	桐生市
	3,517,000	871,400	4,078,400
5位	渋川市	高崎市	みなかみ町
	3,493,200	630,700	3,892,500
		前橋市(7位)	
		421,800	

平成29年度 観光客数・消費額調査(推計)結果 群馬県観光局観光物産課より

◎主な観光施設・イベント入込客数(表7-3)

【単位：人】

観光地・観光施設等	
赤城山	574,000
フラワーパーク	274,500
道の駅大胡ぐりーんふらわー牧場	300,700
赤城南面千本桜	122,700
赤城温泉郷	17,900
あいのやまの湯	276,500
富士見温泉	210,500
粕川元気ランド	175,400
前橋文学館	25,600
児童文化センター	428,200
るなぱあく	402,000
臨江閣	26,600
敷島公園ばら園	416,000
各種イベント・祭り	
前橋七夕まつり	200,000
前橋花火大会	70,000
前橋まつり	200,000
前橋初市まつり	70,000

前橋観光の方向性より

◎前橋市の特徴（他の中核市との比較）（表7-4）

	前橋市 実績値	中核市 平均値	順位
保育所入所待機児童数(人)	0	73.11	第1位
市民10万人あたりの医師数(人)	467.58	292.3	第2位
市民10万人あたりの病院、一般診療所施設数(箇所)	107.95	92.23	第11位
0～5歳人口100人あたりの保育所入所・幼稚園在園者数(人)	78.87	65.67	第5位
1号被保険者1千人あたりの介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）定員(箇所)	18.11	14.86	第7位

※H30時点の中核市54市を対象として、
H28実績に基づき順位付けしたもの

中核市行政水準（宇都宮市）より

◎前橋市のスローシティ国際連盟加盟



（前橋市HPより）

◎創業支援

【創業支援】特定創業支援等事業の証明書発行について

創業を行おうとする人が、前橋市の創業支援等事業計画の中で『特定創業支援等事業』と位置づけられた支援を受け、市の証明を受けることによって、法人登記登録免許税の軽減措置や金融面でのサポートが受けられます。

○前橋市の創業支援等事業計画とは？

平成26年1月20日に施行された『産業競争力強化法』に基づき、前橋市は、創業支援事業計画を作成し、平成26年6月20日付けで国の認定を受けました。また、平成30年度には産業競争力強化法改正に伴い、創業機運醸成事業を加えて平成30年8月31日付けで変更認定を受けました。これにより、前橋市が実施している創業支援に関する下記7事業と、前橋商工会議所が実施している下記1事業を合わせて、計8事業が、創業支援等事業計画に位置づけられることになりました。

○認定された創業支援等事業

- ・創業に関するワンストップ相談窓口事業
- ・前橋市創業支援塾【特定創業支援等事業】(注意)平成30年度終了
- ・インキュベーション施設兼チャレンジショップの運営事業【特定創業支援等事業】
- ・創業サポート総合制度
- ・創業支援コンサルティング
- ・こども起業塾(注意)平成30年度終了
- ・創業スクール【特定創業支援等事業】(注意)前橋商工会議所主催

（前橋市HPより）

◎がん検診の無料化

**無料で受けられる検診(健診)の
受診期限が迫っています！
(平成31年2月末日まで)**



（前橋市HPより）

8. まちなかイベント（一例）

現状

現在、中心市街地ではまちの活性化や本市の魅力発信のため様々なイベントが開催されている。

前橋七夕まつり《7月上旬》



まえきフェス／けやき並木フェス／MAEBASHI BAR STREET 《9月上旬》



街中リバーフェスin広瀬川 《9月中旬》



前橋オクトーバーフェスト《9月下旬》



前橋クリテリウム《9月下旬》



前橋まつり《10月上旬》



めぶくフェス《10月中旬》



前橋初市まつり《1月上旬》



9. 前橋市の現状のまとめ

